



2016年*世界禁煙デー応援イベントを開催しました

今年もWHOの世界禁煙デーに合わせて5月30日に「世界禁煙デー応援イベント」を開催しました。最近では電子タバコが注目を浴びてきていることから、電子タバコの有害性について情報提供のポスターを掲示しました。来場者の中にも電子タバコや加熱式タバコ「アイコス」を使用している人がいました。電子タバコや加熱式タバコ「アイコス」は健康状態への長期的な影響はまだ不明であり、有害物質ニコチンも含まれています。臭いがないとはいえ積極的に勧められるものではありません。

また、美明市の受動喫煙防止条例についてもポスターで掲示しました。この条例は学校や病院だけではなく、金融機関や物販店など多くの場で受動喫煙防止を求めるもので、市町村では初の条例です。来場者の中にはご家族の受動喫煙に関する相談もあり、タバコは吸っている本人だけではなく、家族や地域としても禁煙に取り組むことの必要性を感じました。



次回の禁煙応援イベントは12月を予定しています。今後もより多くの人に禁煙の情報提供ができるよう禁煙イベントを開催していきます。(K保健師)



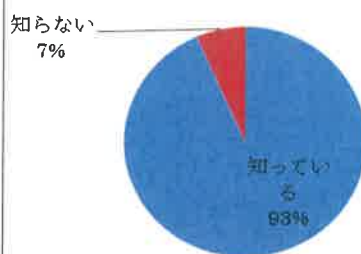
禁煙イベントアンケート

今回の禁煙イベントアンケートでは、電子タバコについて聞き取りをしました。電子タバコを知っている人は93%と電子タバコは私たちにとって身近なものとなりました。実際に電子タバコを使用している人は20%でした。電子タバコはタールが含まれていない等のメリットだけを謳っていますが、発ガン性物質であるホルムアルデヒドが含まれていることがわかっています。電子タバコを継続して使用したことによる健康への害についてのデータがまだないため安全とは言い切れません。

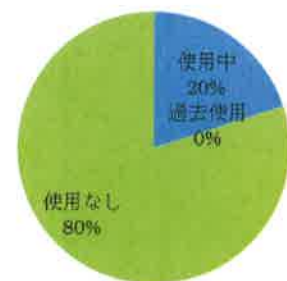
喫煙者は、喫煙動作から卒業できるように頑張ってください！！(S保健師)



電子タバコを知っているか



電子タバコの使用



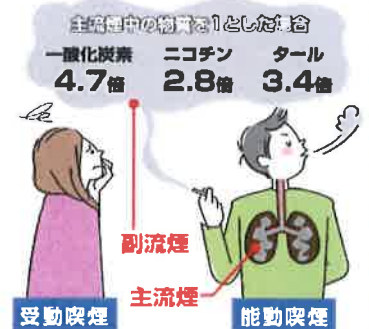
タバコトピックス

受動喫煙の有害性を知っていますか？

厚生労働省と国立がん研究センターは、今年の世界禁煙デー(5月31日)にあわせ、日本での受動喫煙による死亡者数が、少なくとも年間15,000人に上っていると発表しました。このうち約10,000人を女性が占めています。疾患別の内訳は、脳卒中が8,000人と最も多く、心筋梗塞が4,450人、肺がんが2,480人などとなっています。他人が吸ったタバコが原因で死亡するという事は、本来あってはならないことです。

医療機関など公共の施設での受動喫煙防止は進んできていますが、職場や飲食店、家庭などでの受動喫煙対策はまだ不十分です。喫煙室や喫煙者からのタバコ煙の漏れや発散をなくすことは困難であり、分煙対策や喫煙者へのマナー呼びかけで受動喫煙をなくすことはできません。

屋内全面禁煙のルール化と罰則付きの規制、タバコの値上げ、タバコパッケージの画像付き警告表示、ニコチン依存症治療や相談窓口の普及などを通じて、禁煙しやすい環境をつくっていきましょう。(佐藤委員長)



タバコQ&A

Q

若年者は保険診療で禁煙外来を受診可能ですか？

A

今年(2016年)の保険診療の改定では「ニコチン依存症管理料」について重要な改善がありました。これにより平成28年4月1日から35歳未満についてはブリンクマン指数=1日の喫煙本数×年数 ≥ 200 の要件が廃止され、未成年への適用も可能になりました。

若年者の喫煙者が周りにいましたら、医療者として禁煙治療を提案していただくようお願いします。(鷲野主任医長)



編集後記

私が勤めている部署では、紹介状などのお手紙を扱っています。患者様からお預かりした封筒を開けると強烈なタバコの臭いが…。きっと肺の中はもっとタバコが染みついていることでしょう。

呼吸器や心臓の病気で辛い状態にありながらも、タバコを吸い続けていることを思うとタバコの恐ろしさを改めて実感します。医療従事者として、通院や入院中など、患者様に接する機会にタバコについてお手伝いできればいいですね。(W保健師)

